

推薦のことば

竹中完先生は2016年4月、近畿大学消化器内科の胆膵グループのチーフとして北野雅之先生（2016年、和歌山医科大学第二内科教授として転出）の後任として着任しました。それ以降、現在、各方面で八面六臂の活躍をしている新進気鋭のRising starであります。

その竹中完先生編集による「これで完璧！胆膵内視鏡の基本とコツ」が多くの先生方のご協力のもとこの度、羊土社より上梓されることとなりました。この書籍は胆膵疾患診療に欠かせないERCP, EST, ENBD/ENPD, EUS, EUS下ドレナージなどの名人芸の手技のコツについて「矢的を射抜く」ような正確かつ簡潔・明瞭な言葉で解説されており、さらには動画も用意されているため具体的なイメージがつかめるといのが特徴と言えます。それぞれの章の各項目にはその項目の①Clinical question的な魅力的なキャッチコピーが副題としてつけられており、②もやもやポイント、③完璧ポイントでおおよその内容がわかる構成となっています。知らず知らずのうちに読者はその「もやもや」から「完璧ポイント」にたどり着くべく一気に読み進みたくなる衝動にかられる仕掛けとなっており、そして読み終えたときに改めて副題を見返すとこのキャッチコピーの意味が明快に理解できる、という訳であります。

特に本書では多くのパートを竹中先生自身が執筆していますが、その意味で竹中先生がこれまで経験的に身につけてきた手技のノウハウをわかりやすい言葉でかつ整然と理論的に書き下ろしていただいているのも特徴の1つといえます。孫子の兵法に「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず」という言葉があります。竹中先生の文章中には例えば胆管挿入のコツについて、

- 対峙した乳頭の形態、口側隆起を観察することにより胆管の軸をイメージする
- 線をイメージするのではなく向きの異なる3枚のCompact Discをイメージする
- そのCDの穴を順番に通していくようなイメージでカテーテルを進める
- 愛護的にカテーテル操作を行い決して押しすぎず、むしろ引きをイメージする
- 挿管困難例の多くは術者自身が難しくしてしまっている
- ESTはグーチョキパー

などのわかりやすい、理論に裏打ちされた明快な言葉・名言を多用しながら結果的に見事な胆膵疾患攻略の「兵法」の書となっています。このCD method（第2章-10参照）の例が端的に示しているように自らの手で身につけた名人芸的な技術あるいは自らの頭の中にあるイメージを初学者にどう伝えたらいいか、ということ竹中先生は常に考えている良き教育者でもあるということを示しているとも言えます。Uneven法というUDLCの胆管挿入への応用なども竹中先生のアイデアマンぶりをよく示していると

個人的には思っております。

本書を読むことにより胆膵内視鏡への「もやもや」が霧のように解消し、また日常的に本書を活用することにより胆膵内視鏡のレベルが確実に向上し、結果的に患者さんのためになる優れた胆膵内視鏡医が数多く日本中に誕生することを確認しております。

最後に竹中完先生にこのような書籍を発刊する機会をお与えいただき、またご執筆、ご支援いただいた胆膵領域の各学会の諸先生方および羊土社の関係者の方々に深く感謝の意をあらわしまして私からの推薦の言葉とさせていただきます。

2021年9月

近畿大学医学部消化器内科学 主任教授
工藤正俊